

品質検査の自動化システムを導入

当社グループでは、グループ全体の幅広い製品における品質検査業務の信頼性向上、効率化、およびヒューマンエラーの防止を目指して、品質検査の自動化システムの導入を推進しています。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、概ね計画通りに導入計画が進捗し、今後は成功事例の共有と新規事業への展開を課題としています。

製品・サービスに関する情報提供

当社グループでは「品質基本方針」に則り、製品仕様書、SDS[※]等を通じてお客様に対して製品およびサービスに関する情報提供を行っています。例えば、当社グループ会社が販売する硫酸は、国内の毒物及び劇物取締法で劇物に指定されており、当社グループでは、取引先を毒物劇物販売業者に限定し、またSDSを交付することで、商品をお客様へお渡し

品質に関する人材教育の推進

当社グループでは、品質管理レベルの底上げを図るとともに、問題の原因を論理的に推定して自ら課題を見つけ解決する問題解決能力の向上と、業務品質の向上を目的として、全従業員を対象とした品質管理教育を実施しています。入門コースから上級コースまで受講者のレベルに応じた各種研修プログラムを用意しており、職能レベルや入社年度に応じて計画的な受講を進め、社員教育の一つとして定着しています。

当社品質管理部では、2020年度から、内部品質監査員の力量向上を目指し、QMS審査員などの資格取得を奨励し、外部講師による振り返り研修等を導入することにしました。

賠償責任問題の発生状況

2020年度は、当社グループ製品の欠陥が原因で生じた人的・物的損害に対して、製造物責任法に基づく賠償責任問題の発生はありませんでした。

した後に、お客様やその労働者に対し、労働安全衛生上の重大なマイナスの影響を防止するよう努めています。

※ SDS(Safety Data Sheet 安全データシート)：化学品について、化学物質・製品名・供給者・危険有害性・安全上の予防措置・緊急時対応などに関する情報を記載する文書。



当社日立事業所での
リモート教育受講の様子



リモート教育を受講しながら
演習実施の様子

VOICE

研修プログラム受講者の声

国内・海外の工場・グループ関係会社を対象とした内部品質監査の監査員を目指して、ISO9001内部監査員セミナーを受講しました。セミナーでは、プロセスアプローチの原則とともに、要求事項に対する適合性にとどまらず、品質目標達成に対する有効性を評価することが重要であることを学び、資格を取得することができました。

今後、セミナーで学んだことを活かし、被監査側の実態に寄り添った監査を心がけ、強固な信頼関係を築いていきたいです。そして、内部品質監査員として、当社のQMS改善に貢献できるよう、さらなるスキルアップに励みます。



JX 金属(株)
技術本部 品質管理部
渡辺 里子

社外取締役メッセージ

脱炭素化を推進する
イノベーション実現に向けて、
その中心的立場を担っていきましょう

【プロフィール】

2004年、早稲田大学理工学部助手に就任。早稲田大学理工学術院専任講師、准教授を経て、2015年より早稲田大学理工学術院教授(現任)。2016年、東京大学生産技術研究所特任教授(現任)。2021年4月、東京大学大学院工学系研究科教授(現任)。2021年4月より当社社外取締役。専攻分野は資源処理工学、環境浄化工学。

JX金属(株)
社外取締役
所 千晴

社外取締役として果たしていきたい役割

私は資源工学が専門で、JX 金属とは、学生時代の閉山直前の豊羽鉱山への訪問をはじめ、その後の鉱山廃水処理やリサイクル等の研究などで一緒にさまざまな活動をしてきました。資源確保、資源循環の問題は社会課題として重要なフェーズに差し掛かっていますので、まずは専門の立場からお役に立てればと考えています。そして、私は大学というニュートラルな立場にいますので、経営に対しても中立的な視点の意見も出せるように心がけていきます。

また、工学分野は女性の研究員が非常に稀ですので、マイノリティの立場を長く経験してきました。社外取締役として、ダイバーシティの視点からも経験を踏まえた発言をしていきたいと考えています。

ダイバーシティの推進には組織内部に存在するアンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)が障害となっています。環境変化に強い組織をつくるためには、このようなバイアスをできる限り中和し、多様な人材が自分らしさを発揮できる職場をつくり、人材多様性を組織の力につなげていくことが重要だと思っています。私自身は2021年4月から取締役会に参加していますが、予想していた以上に発言しやすく、関連に議論を行える場が実現できていると感じました。

ESG経営の加速に対する意見

欧米に比べて、日本企業はESG経営について周回遅れという感がある中、非鉄金属業界の先頭を切ってESG経営に舵を切ったことは高く評価できると思います。私が2016年からお手伝いをしている東大への寄付講座でも、長期的な視野に立った社会全体へのアウトリーチがミッションとなっていますし、JX 金属にはもともと社会に対する広い貢献を大切にされる意識があったのだと思います。

またJX金属は、金属資源の安定供給と先端的な機能性材料の技術革新を通じた社会環境への貢献という使命も担っています。例えば、バッテリーを普及させて電力をスマートに使いたい、あるいは、再生可能エネルギーを増やしたいとなれば、電気を通しやすい銅を利用した高効率な箔や線などの材料が不可欠です。さらに、金属はリサイクルができますから、JX金属の技術によって繰り返し使えるようにして、限りある資源を守っていかねばなりません。つまり、事業の根本が社会環境への貢献に大きく関わっていますから、ESG経営へのシフトは行うべくして行われたことだと言えます。

カーボンニュートラル達成への道筋

JX金属が社会の脱炭素に向けて果たす役割は非常に大きいと思います。そうした中で、2030年度自社CO₂総排出量50%削減(2018年度比)という、非常に思い切った目標を掲げました。このような高い目標は、これまでの延長にある取り組みを積み上げるだけでは不可能で、非連続なイノベーションがなければ達成はできないでしょう。そして、そのような社会的イノベーションを起こすには、一企業のみだけでは難しいと思います。JX 金属は今こそ築き上げてきた技術力と信頼を基盤に、サプライヤーやお客様、大学、地域などを丁寧につないだネットワークを形成し、その中心的立場を担うべきだと考えます。

「先端素材で社会の発展と革新に貢献するグローバル企業を目指す」ことを長期ビジョンとして掲げていますが、これを実現する上でも、世界のステークホルダーとのネットワークにより信頼の循環をつくることは非常に重要です。社会基盤の根底を変えていくイノベーションを成し遂げてこのビジョンを実現し、社会になくてはならない企業であり続けていただきたいと期待しています。